

伊那市農業振興センターだより

運営委員長 原 一馬

☆今年を振り返って☆

本年の気象経過は暖冬で始まり、春の農作物の生育は平年並みとなりました。

梅雨入りが遅れ、雨不足が心配されましたが、適度の降水もあり水稲を始め作物全般に順調な生育となりました。梅雨明け以降は昨年を上回る記録的な酷暑（史上最も暑い夏）により各品目とも減収や品質低下等の影響を受けました。

そうした中、水稲作況指数が全国101、長野県101、南信は100で平年並みと公表され10a当たりの予想収量は全国540kg（平年比+3kg）長野県620kg（同+1kg）南信620kg（同-9kg）[10/25現在]が見込まれています。

米価は昨年的高温障害による品質低下が影響し、市場流通量の激減により需給が引き締まり、業者間の集荷競争が過熱した為、新米価格は近年にない高価格となりました。

しかし多くの資源を輸入に依存している農業は、生産コストの高止まりが続き、経営は圧迫され、農業所得の増加には結びついていないのが実態です。

農業者の高齢化、基幹的農業従事者の減少、耕作放棄地の増加、TPP等による競争激化等農業を取り巻く情勢は厳しさが増し、このまま農業者が減り続ければ国内の米需要量を国産で賄いきれないとも言われています。

国は新たな食糧・農業・農村基本計画の策定により、食料安保に取り組む方針を示すとともに、資材高騰分を販売価格に転嫁すべく農畜産物の適正価格形成に向けた法案提出の動きが出てくる等、政局を期に農政の転換が囁かれています。

農政の中長期的な方針が策定される中、新たな基本法を含め、国の諸施策が持続可能で多様な担い手が安心して農業経営を続けられるような政策となるか注視が必要です。

地球沸騰化の時代と呼ばれる昨今、気候は目まぐるしく変動し、降れば水害、晴れば猛暑干ばつ、と世界中が極端な自然災害に見舞われ、農業者の苦労は絶えません。一年一作の農業、1年の苦労が収穫の喜びで報われ、農業者の懐が潤い、営農意欲が湧く、そんな巳年（2025年）になる事をお祈り致します。



降雪からの農業用施設及び農作物等の被害防止対策（農業用ハウス等）

- 耐雪補強として、中柱、筋かい等を設置する。
- 加温設備のあるハウスでは雪の降り始めから加温し、内張りカーテンを開け、上部の融雪を早めに行う。（燃料切れとならないよう残量の確認を）
- 加温設備のないハウスでは、ジェットヒーターや複数のストーブで加温する。（周囲に燃えやすい物を置かない等、火災防止に注意）
- 屋根部への積雪量が多い時は、早めに除雪する。（2人以上で作業を行う等、安全確保を図って下さい）

あなたの田んぼがピンチです！！

○水張しないと、転作交付金の権利がなくなります！！！！

- ・国の方針により、令和4年度から8年度までに水張を行わない水田は、「水田活用の直接支払交付金」を受ける権利がなくなります。
- ・交付金の権利を維持するために、令和4年度から1度も水張をしていない水田（市内約1,300ha）については令和8年度までに水稲作付けか、一か月以上の水張を行ってください。
- ・交付金の権利を失った農地は、令和9年度以降に水張をしても、権利は戻りません。耕作を人をお願いしている方も、交付金が出ない水田は次の借り手が見つかりにくくなりますので、くれぐれもご注意ください。

詳しくは伊那市 HP をご覧ください⇒



○「畑地化促進事業」の活用を考えている方はご相談ください！

- ・令和7年度も本事業が継続するかは未定ですが、事業が継続した場合を想定して準備を進めますので、活用を検討している方は1月末までにご相談ください。
- ・「畑地化」とは、水田を転作の交付金対象から除外することです。
- ・令和6年度の交付金額は10aあたり計24万円（令和7年度は未定）です。
- ・水路設備があること、土地改や地主の承諾を得ていることなどの条件があります。



伊那市 HP

10月31日（木）	運営小委員会主な議題	11月19日（火）
(1)運営小委員会 ①営農計画書等の配布、回収方法の検討について (2)認定農業者認定審査会、人・農地プラン検討会 ①再認定 1件 計画変更 1件を認定しました。 ②人・農地プラン更新申請について承認しました。 (3)以下の報告事項の説明を受けました。 ①令和7年産主食用米の適正生産について ②産地交付金のメニュー統合について ③転作の現地確認状況について ④5年水張の状況について ⑤令和7年度市単事業及び国庫事業の農業機械導入事業補助金に係る要望調査について ⑥令和6年度伊那市燃料高騰対応施設園芸農家支援事業、令和6年度伊那市飼料高騰緊急支援事業について ⑦目標地図の見直しについて ⑧マイコス米視察報告について	(1)運営小委員会 ①有機農業の推進について ②目標地図について (2)認定農業者、認定新規就農者審査及び人・農地プラン検討会 ①再認定6件 認定新規2件の認定 ②人・農地プラン更新申請について承認しました。 (3)以下の報告事項の説明を受けました。 ①10月小委員会の質問に対する回答 ②農業委員等候補者の確認について ③米穀関連情勢について	